ミスミグループ本社 2026 年度 上期 決算説明会(Zoom) 質疑応答（抜粋）

（2026 年 10 月 30 日（金））

＜質疑応答＞

【業績全般】

・ 中国事業の見通し

Q：中国事業の売上高見通しが高水準を維持している背景と、先行きのリスク要因は。

A：光トランシーバー関連の需要は、今期・来期ともに受注残を確保している。EV 減速の影響はすでに一巡しており、顧客ポートフォリオを成長分野へ迅速にシフトさせている。仮に AI 関連投資が減速した場合は、中国よりも半導体依存度の高い韓国・台湾等の方が影響を受けやすいと見ている。

・ AI/DX 投資

Q：AI/DX 投資による費用増の進捗状況と、来期以降もこの費用増は継続するのか。

A：計画通り進捗している。投資は継続するものの、基幹システムの刷新完了や成長投資の寄与、人員投資の抑制効果により、来期以降は営業利益を押し上げるレバレッジ効果が出てくると見込んでいる。

【セグメント別】

-FA 事業

・ 通信関連向け自動ステージの動向

Q：通期計画で商品 MIX による営業利益への好影響を 26 億円見込んでいる背景と、自動ステージの売上規模は。

A：中国データセンター向けの売上想定を 203 億円から 228 億円へ引き上げた。26 億円には売上増の効果だけでなく、原価低減や、懸念していた部材コストアップの影響が限定的だったことによる利益率改善（半分強）も含まれている。

Q：中国製光トランシーバーに対する米国の輸出規制リスクと、当社への影響をどう見ているか。また、生産シフト時の対応力は。

A：納入先のエンド顧客は十数社あり、その多くが欧米メーカーで、純粋な中国企業は 2 社にとどまる。当社の生産拠点は中国だけでなくベトナムにもあるため、顧客が生産地をアジア等へ移転した場合でも問題なく供給対応が可能。

・ ヒューマノイドロボット向けボールねじ

Q：ヒューマノイドロボット向けのボールねじの事業機会は拡大しているか。

A：現状についての言及は差し控える。なお、中国の現行のエンタメ向けヒューマノイドには、一般にボールねじは活用されていない。

・ Fictiv の収益改善

Q：Fictiv は 2Q 単独で償却前黒字化を達成しているが、通期見通しを据え置いた背景と、来期の損益イメージは。

A：3Q 以降は米国のホリデーシーズンや中国の春節などの季節要因があるため、通期は堅めに見立てている。収益改善は、2027 年度の黒字化計画に対して順調に進捗している。

-VONA 事業

・ **2Q の利益率低下**

Q：VONA 事業の 2Q における利益率低下の要因と、下期に向けた収益性の見通しは。

A：仕入販売が中心の事業であるため、仕入価格の上昇や価格改定のタイミングにより四半期ごとの変動はあるが、特段の問題は発生していない。E コマース基盤を活かした価格対応力があり、過度な懸念は不要と考えている。

【コスト対応／オペレーション】

・ **供給体制・部材調達**

Q：足元の供給体制に滞りはないか。また、先行発注の状況や部材調達のボトルネックは。

A：短納期体制を基本としつつ、アジア等で先行受注が増加しており、予測が立ちやすくなっている。カスタマイズ領域の生産ラインは高稼働が続いており、人員補強を進めている。部材調達は全般的に対応できているが、一部のエレキ製品では納期が長期化している。

・ **需要減速時のコスト構造**

Q：需要が減速した場合、固定費増などによるコスト体質の悪化懸念はないか。費用構造は柔軟に調整可能か。

A：コスト変動への柔軟性を重視している。増加費用は利益配分（業績連動賞与）や成長地域での人員増が中心であり、デジタル投資による業務効率化も寄与しているため、需要が減速した場合でも同等の利益率を維持できる構造となっている。

【資本政策】

・ **資本政策・キャッシュアロケーション**

Q：中長期成長プランの公表に合わせ、資本政策やキャッシュアロケーションのさらなる強化を検討しているか。

A：ROE や ROIC を含む資本政策について、市場の要請に応える形で考え方を明確に開示できるよう準備を進めており、本決算時に提示する予定。

以上